

## 編集後記

充実した感動の3日間であった。10月13日から15日まで沖縄県宮古島市で開かれた学会大会。<sup>ひらら</sup>平良市が市町村合併して宮古島市となった。その市制一周年を記念して、市との共催でシンポジウムと『英語能・ハムレット』公演を行なった。昨年12月に上田会長が講演に招かれたとき、被爆国としての反省にたち日本は絶対平和主義を貫くべきとし、「平和のための世界の文化の調和と融合」をモットーとする本学会を紹介したのがきっかけという。確かに「海・空・大地紺碧の<sup>まていだ</sup>真太陽市」（上田作「宮古島讃歌」）であった。詳細はホームページと本号に新設した〈資料〉に譲るが、初日夜の「交歓会」は未来志向の決意表明や明るいスピーチ、琉球歌謡その他の演奏に大いに盛り上がった。「いのち・健康・平和の喜びを宮古島から世界へ向けて発信しよう」と上田会長は訴えた。シンポジウムでの種々の提案や、『英語能・ハムレット』のプロの能楽師による本邦初演は新聞その他で報道された。〈資料〉参照。この熱気は三日目の池間島離島振興センターでのクイチャー踊りで最高潮に達し、住民と学会メンバーたちとの深い交流が実現されたと思う。これら三日間の成果を今後いかに発展させるか、課題であり、大きな楽しみでもある。

さて、本号より〈論文〉〈エッセイ〉〈資料〉の3本立て編集となった。普通は論文と見なされない書き物や資料なども収録したいとの考えからである。趣旨をご理解の上、今後、会員諸氏のご協力をいただければ幸いである。（編集子）

ケンブリッジ学派の経済学者でケインズ『一般理論』を一般化したジョーン・ロビンソン Joan Violet Robinson の主要論文は、『経済学論文集』*Collected Economic Papers* (1960-73) 4巻に収められている。だが私は彼女のエッセイ、*Essays in the Theory of Economic Growth* や *An Essay on Marxian Economics* に注目する。その理論が画期的で、対象領域が広いからである。彼女の独創性、学際性を育んだのはイギリスのエッセイの伝統と考える。経済学とは何かを考える際に重要な文献、ライオネル・ロビンズの『経済学の本質と意義』*An Essay on the Nature and Significance of Economic Science* もエッセイである。学際的で創造的、全人的な研究にはエッセイという様式も必要と考える。(M.K.)

巻頭論文の副題に惹かれた。当学会のモットーは「全ての生あるものがその『生』を享受し全うしうる調和を創造すること」であるが、巻頭論文の「一人間とロボットとの平和的共存を求めて一」という副題は、もはや「生あるもの」の範囲を超えている。人類社会の脅威となりえるのは、ロボットのような知的存在に限らない。人間が元凶である自然環境の破壊や汚染も大きな脅威である。しかしロボットは、また、理想像にもなりうる。改めて「非生物との共存」について考えさせられた。(Z.K.)

---

---

**『融合文化研究』第8号**

<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/>

発行所 192-0906 東京都八王子市北野町 560-11-302 菊地方

国際融合文化学会 (ISHCC) 事務局

発行人 上田 邦義

発行日 2006(平成18)年11月30日

印刷所 合同印刷株式会社

Published by: International Society for Harmony & Combination of Cultures (ISHCC)

c/o Kikuchi, 302, 560-11, Kitano-machi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0906, JAPAN

e-mail: [ueda@gssc.nihon-u.ac.jp](mailto:ueda@gssc.nihon-u.ac.jp) Tel: 0557-82-1411(Ueda)

---

---